

北陸地方のキリスト教保育史

— J.K.U. 年報からの翻訳と解説 (5) —

The History of Christian Early Childcare and Education of Hokuriku District

— A Translation and the Interpretation from the J.K.U. Annual Report (5) —

山 森 泉*

Abstract

This manuscript is the translation of part of the 『ANNUAL REPORT OF THE JAPAN KINDERGARTEN UNION [1923-1927]』 of Hokuriku district and it is continued from the 『BULLETIN OF THE HOKURIKU GAKUIN JUNIOR COLLEGE NO.39』. The purpose of this manuscript is to clarify some aspects of the history of Christian early childcare and education in Hokuriku district. In addition to the translation into Japanese, the original data was verified and supplementary information was added.

キーワード：J.K.U. / 北陸地方キリスト教幼稚園 / 大正末期～昭和初期

1. はじめに

本稿は、『北陸学院短期大学紀要』第39号に続く第5報として、『Annual Report of the Japan Kindergarten Union』(J.K.U.の年次報告)から、北陸地方(石川、富山、福井)に関する部分を翻訳し、他資料に基づく関連事項からなる「補説」をまとめたものである。巻数は17号から第21号、1923(大正12)年から1927(昭和2)年の報告である。

今回訳した5年の間に、関東大震災や記録的豪雪など、予想をはるかに超えた自然災害が起こっている。当時の外国人宣教師や幼稚園教師たちがそれをどのように受け止めていたのかも記述からうかがい知ることができる。

また、人為的な影響では、仏教系の幼稚園開設がキリスト教幼稚園に入園する子どもの減少を招き、経営困難な状況に陥る園もあったことがわかる。

今回も、巻末資料として次の二つをまとめた。

参考資料1は、単年度ごとの掲載である各号の巻末リスト5年分を園ごとに一覧できるようにしたものであり、教師の異動、園児数、保育料などの変動を見ることができる。

参考資料2は、『日本キリスト教保育百年史』に記載されている「J.K.U.時代の北陸部会研修会一覧」に関して、未記載部分を補ったものである。記載した範囲は今回の訳出と重なる第8回～12回までである。

本文中の外国人名の表記は、原則として『Annual Report of the Japan Kindergarten Union』第7巻の人名索引に従った。日本人名に関しては、漢字表記が判明している者もいるが、すべてカタカナ表記とした。

2. 第17号(1923年、大正12年)

17頁 北陸部会

北陸部会は5月10日と11日に、約50人が参加して金沢の北陸女学校附属英和幼稚園で行われた。

主要な報告は、母の会、卒業生への福音伝道の業、歌、そして子どもの健康に関するものであった。

土曜日の午前中の自由討議の時間は、非常に興味

* Izumi YAMAMORI
北陸学院大学 人間総合学部 幼児児童教育学科
日本語表現法

深いものとなった。すべての幼稚園が貢献した歌とゲームの時間は、何曲かの新しい歌とゲームをもたらしした。

金曜日の夕方の懇親会と土曜日に散会する直前の全体での昼食会は、私たちがよりいっそう知り合う機会となった。

M. M. ステープル 書記

別冊『LITTLE FACES TOWARD THE SUN』

外からの光

1. 遊びと読書の時間
2. 楽しいお祝いの時
3. 幼稚園に母親がやってくる
4. 健やかな子どもを育てる
5. 世話好きな園丁
6. 園を豊かにする贈り物

内側の光

1. 子どもが信仰の証し人となる
2. 他人を幸せにすること

雲間から射す光

1. 1923年9月1日の地震と大火¹⁾

【補説】

毎年、報告書以外にも別冊が追補版として出版されることがあった。1923年にJ.K.U.から出されたこの『LITTLE FACES TOWARD THE SUN』（太陽に向けた幼子らの顔）もそのうちの1冊である。これらに収録されている文章は、過去の年次総会で発表された報告の中からあるテーマに沿って選ばれ再編集されたものであり、全体が年次報告の文章からの抜粋となっている。

本文は、上記「～の光」という3つの見出しに分類され、各タイトル²⁾のテーマに沿ったレポートが何本かずつ取り上げられている。

J.K.U.では、毎年、報告書以外にも今回のような別冊（追補版）を出版している。³⁾見出しタイトルごとに収録されているのは、従来の報告の中からテーマ毎に選ばれた原稿であり、手元に置いてそれぞれの園で活用できる形でまとめたものと考えられる。

このほか、『LITTLE FACES TOWARD THE SUN』には、「幼稚園での種まき」（原題 Seed sowing In the Kindergarten）と題するレディアードの

文章がある。7巻に翻訳が掲載されている⁴⁾上、個別の園の報告ではないので、本稿での訳出は行わない。

(3. MOTHER COMES TO KINDERGARTEN.)

11頁 北陸女学校の幼稚園 金沢

過去何年か母の会では、幼稚園で実施されていること、作業を管理する目的や幼稚園での教育に対する子どもの反応など、たくさんの話し合いがなされた。けれども、学期初めの何日か子どもと一緒にやって来る母親を除くと、実際に幼稚園を訪れて何が行われているのかを自分自身で見ようとする親はいなかった。

この事実がはっきりわかったので、教師たちは11月の母の会の折に、保護者たちを幼稚園に招いて午前中を過ごしてもらうことに決めた。30人を超える父親と母親が招きに応じた。親たちは多大な関心を持って様々な活動に取り組み、とりわけリズム活動とゲームを楽しんだ。非常に多くの関心が示されたので、毎年、の行事としてお引きの日を設けることにした。

アイリーン・ライザー
北米長老教会

14頁と15頁の間 敦賀幼稚園の写真

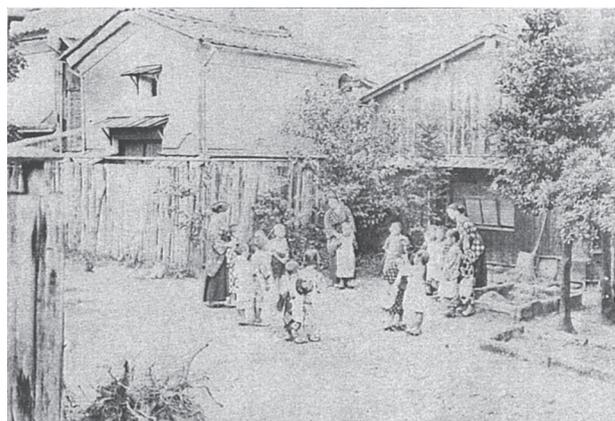


写真1 Tsuruga Kindergarten-Tsuruga, Canadian Methodist

【補説】

「健やかな子どもを育てる」に関連した写真として挿入されたものである。戸外での活動の一場面として取り上げられたものであろう。裏面には、神戸同胞教会のピクニックの写真が載せられている。

(4. MAKING FOR HEALTHY CHILDREN.)

15頁 金沢の幼稚園 金沢

各幼稚園では母の会の援助を得て、3月に「健やかな乳幼児の日」が盛大に行われた。町にクリスチャンの医師はいないが、ノンクリスチャンの医師たちは赤十字の二人の看護師と同じように、親切に無料で奉仕してくれた。適切で確実な標準体重と測定方法が最大の問題点であった。準備には何カ月かかかったが、困った事態も起こらず順調だった。地方にある町の一つは、乳児診療を自分の町でも行えないかと問い合わせてきた。

ここ2週間の教育課程は体の清潔と心の純真さに関するもので、「イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人ともに愛された」※という聖句に基づき特に強調して行った。

【補説】

聖書「ルカによる福音書」2章52節からの引用である。

16頁 二葉幼稚園 金沢

訳文省略

【補説】 Mr. P. A. スミス（プロテスタント英国国教会）による報告記事である。J.K.U.16号（1922年49ページの）掲載記事の一部分（前年度のJ.K.U. 報告）と同じ文章である⁵⁾ ため、訳文は省略する。

内容は、幼稚園で行われた健康診断の後、園医が母の会で子どもの健康に関する話をしたことである。特に、当時流行し易い病気である扁桃腺やアデノイドについて園医が予防法などを話したことは、二葉幼稚園以外にも大いに母親たちの関心を集めたと考えられる。

当時の金沢市の死亡率は人口1000人あたり20人強と、常に全国でワースト3になるほど高かった。

疾病率も鼻病26.07%、扁桃腺肥大18.13%との数値もある。⁶⁾ 4~5人に一人の割合で子どもがこのような疾病にかかっていたのであれば、母親たちが関心を寄せるのも当然であろう。

今回のように既に行われた報告を再度取り上げる場合、二葉幼稚園の報告内容全部を紹介するのではなく、「健康な子どもを育てる」というテーマに沿って該当する部分のみを再編集して載せている。

1. THE CHILD BECOMES A WITNESS.

22頁 青葉幼稚園 富山

訳文省略

【補説】

天に召された男の子の信仰が両親を洗礼に導いたという内容の記事である。前項の二葉幼稚園の記事同様、テーマに沿った内容として再掲したものである。初出は、J.K.U. 第15号 1921年（大正10年）にある⁷⁾ ため、ここでは割愛する。

以上が、『LITTLE FACES TOWARD THE SUN』所収分のうち、北陸三県に関するものである。

3. 第17号（1924年、大正13年）

19頁 北陸部会

幼稚園連盟北陸部会の年次総会は、部会長のミス・ステープルを議長として、1924年5月9日と10日に、金沢の野町幼稚園で開催された。

以下のプログラムが行われた。

礼拝は長老派教会の秋保牧師（※1）によって進められた。

点呼と会長挨拶

講演：幼稚園の子供の健康 金沢医科大学のハヤシ博士

講演：「非キリスト教幼稚園とキリスト教幼稚園の恩物の用い方の比較」

ミセス オオヤマ トク（※2）

彼女は、非キリスト教の幼稚園では、恩物は「積み木」と呼ばれ、何の計画も特別な配慮もなく自由に使われていると語った。キリスト教の学校においては神の計画と恩物の思想が関連し合っているということを、彼らは知らないのである。

事務会議と懇親会は、カナダメソジストの宣教師館で7時に行われた。（※3）

次の幹事が選出された。

会長：ミセス オオヤマ 高岡

副会長：ミス E. レディアード

書記：ミス イチカワ 富山

書記代理：ミス テイトロー

会計：ミセス ナガヤマ、金沢

夕方の興味深い呼び物は、日本とアメリカの両方の幼稚園で取り組んだ絵が示されたことだ。

副会長のミス サクライが議長で、9時から土曜日の朝のプログラムを始めた。野町教会の渡辺牧師が礼拝を務めた。彼は礼拝における短い説教で、クリスチャンの人生は神を知るようになるだけでなく、また神に対する務めを果たす、つまり人生に対する務めを意味していると述べた。

真の道德の種が幼子たちの心に播かれ、やがて世界の優れた他の国々と日本が肩を並べると、彼は力説した。

金沢師範学校の心理学の教師のサクダ氏は、子どもに関する新旧の見解を対照させ、遊びについて興味深く有益な話をした。

【補説】

※1:秋保孝次牧師は、この年に着任し、1940年(昭和15年)まで金沢教会の牧師を務めた。

※2:巻末のリストで確認できる教師は、オオヤマ:高岡の北陸女学校附属第三幼稚園、イチカワ:富山青葉幼稚園である。

※3:宣教師館は、十四番館のことであり、裁判所通り14番地にあった。J.K.U.年次報告書の巻末に記されているアクティブメンバーの住所では、レディアードの住所として記されている。

幼稚園報告

34頁 米国伝道:英国国教会 二葉幼稚園 金沢

幼稚園に関する今年最も顕著な事実は、入園者の減少を記録したことである。

これは、主に仏教系の幼稚園が私たちの園の片側に開園した(※1)ためのやむを得ないことであるが、一方でこれまでにない多くの卒業生を送り出したことにもよる。

しかしながら、私たちは落胆せず、むしろ少人数の母親たちのグループとより深く知り合うようにとこの機会を用いる努力しており、この点においては成功していると感じている。特に日曜学校の活動(※2)である福音伝道の面に関しては、多くの外圧が加わっているが、この秋、私たちは「朝の集い」からいっそう宗教的なことを扱っていくつもりである。

幼稚園は教会から1マイル以上離れていて、(※3)

教会と幼稚園とのつながりは持っていなかったが、子どもたちに真の礼拝についての理解を与えられるようにと願っているという必要に迫られ、教会と密接に関わらなければならない。

H.L. ティットロー

【補説】

※1 仏教系幼稚園が開園したことは、16号(1922年)で既に報告されている⁸⁾。1922年(大正11年)2月8日に真宗大谷派が「仏教幼稚園」を開園し、2月15日には東本願寺が「金澤幼稚園」を開園しているため、キリスト教幼稚園に与えた影響は大きかったであろう。

二葉幼稚園を開園した当初は40名の園児がおり、園舎が狭いために入園希望者を断らなければならない状況だった⁹⁾が、この年、二葉幼稚園の園児は在籍24名となり教師1名で受け持っていた。前年の1923年(大正12年)も園児数は24名(教師は2名)との記録があり、入園者の激減は直ちには数字に出てこない。しかし、巻末リストでは翌年1924年には園名の記載がなく、1925年~1927年の記載では入園者が10名と激減している¹⁰⁾。

※2『金沢聖ヨハネ教会八十年史』31P参照。ただし、日曜学校は在籍者124名を教師7名が受け持ち、一回あたりの平均出席者も90名と盛んであった。

※3 1897年(明治30年)の教会設立当初は、講義所として池田町4番丁33番地の民家を用いていたが、翌1898年(明治31年)、南町(現在の金沢市香林坊2丁目)に買い求めた敷地に教会堂建築を開始し、12月に会堂は完成した。1899年(明治32年)、3月19日「日本聖公会金沢聖ヨハネ教会」と正式に命名されている。

一方、二葉幼稚園は1912年(大正元年)、ミス・リースを園長として彦三番丁に設立された。図1(注8参照)に記載したように実際に1km以上離れているため、何かあった際に直ぐ訪問して相談するというわけにはいかなかったのである。

49頁 金沢の幼稚園

競争相手が事業を推進していく原動力であるならば、金沢にある幼稚園の一つは記録的な事業をするはずであったが、ことわざにも例外があるに違いない。というのは、以前勢いが盛んだった馬

場幼稚園が、競争相手の影響を受けてかなり減衰してきたからである。精力的で進取の気性に富んだ僧侶のいる新しい仏教系の幼稚園が、20人の子どもを奪っていった。近隣の人々は満足な教育を受けておらず、遠慮がちであるため、僧侶たちは絶大な権力を持っていた。この1年で私たちの園の出席者は65人脱退し、待機者のリストは30人になった。(※1)しかしながら、私たちは変革を願い、今抱えている状況を耐え忍び鍛錬の時としている。同じ地区では、ボーイスカウト連盟の一部としての日曜学校に対する反対が決議された。何もかも落胆することばかりだったが、私たちはたゆまず取り組んでおり、事態は好転してきたように感じられた。

同じ地区の他の4つの幼稚園(※2)は順調であり、新しい立派なピアノを贈ってくれた野町幼稚園の母親たちと、あともう少しでピアノを調達できる川上幼稚園の母親たちにとりわけ感謝している(※3)。ピアノを用いることができない別の幼稚園では、母親や教師がとても立派な蓄音機¹⁴⁾を備えた。私たちの働きについて、このように日本の女性たちの関心が増していくことは大きな励みである。

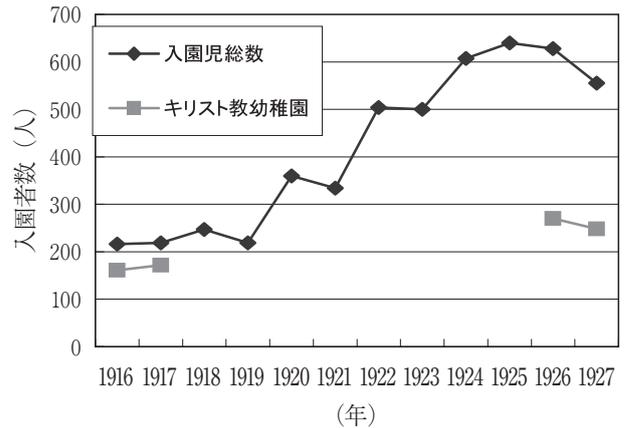
公立の小学校1年生の教師たちとの小さな会合は、適度の関心と相互のメリット(※4)によって再度開かれた。これは、卒業生を受け入れている教師たちに私たちの幼稚園のやり方を紹介する非常にすばらしい方法である。

E. レディアード

【補説】

※1 仏教幼稚園と金澤幼稚園が1922年に設立されたことにより、金沢市における幼稚園入園児の数は急増した。¹²⁾1920年ごろまでは200~300人程度の入園児であったが、仏教幼稚園・金澤幼稚園が開設した影響からか、1922年には入園児が500人を超え、1924年には600人台に達するなど、その急増ぶりが明らかである。また、園別の人数の統計がある1917年以前と1926年以降を見ると、キリスト教幼稚園の割合が減少していることも顕著である。

グラフ1 入園者数の変化



『金沢市統計書』より作成

(グラフ1 統計書の記載方法は、大正6年までは園別の人数記載があったが、大正7年から大正14年までは園児の総数表記となっており、再び園別の記載となるのは昭和に入ってからである。)

※2 カナダメソジスト系の幼稚園では、馬場幼稚園以外に川上幼稚園、白銀幼稚園、野町幼稚園(現在の桜木幼稚園)のほか、1922年(大正11年創設)の広坂幼稚園(現在の長町幼稚園)があった。ただし、『金沢市統計書』の記録では、正式認可の関係上からか広坂幼稚園は含まれていない。1924年の金沢市統計書では、10園の記載がある¹³⁾。

※3 原文のスペルは「Kamakami」となっているが、「Kawakami」のことである。川上幼稚園「母の曾記録」にはピアノ購入のことが記されている。それによれば、大正13年10月31日午後7時から、音楽会を開催している。目的は幼稚園にピアノを購入するためであり、感謝祭・秋季同窓会を兼ねて、母の会と同窓会が主催したものである。同年11月の母の会は、この音楽会に尽力した母の会や同窓会幹事たちを労うため、十四番西洋パーラ(カナダメソジスト婦人宣教師館の応接室)において開かれた。純益は106円43銭であったが、まだ不足金があるため、幹事たちにいっそうの尽力を要請している。なお、「母の曾記録」が一部散逸しているため、購入日に関しては現時点では未詳である。J.K.U.の1925年の幼稚園報告(後述)では、もう少しで購入資金に達する旨の記載がある¹⁴⁾。

※4 小学校教師との懇談は、今日の幼小連携にあたる。就学前教育の必要性和その効果を認め

ている小学校長の談話を報じている記事が既に1919年（大正8年）に報じられている¹⁵⁾。

62頁 北陸女学校幼稚園 金沢

2ヶ月の間、金沢と高岡にある北陸女学校の二つの幼稚園のそれぞれの計画は、救い主キリストの誕生につながる旧約聖書の物語を定着させることだった。黄土色の卓上の肖像画を手作りしたことや劇に仕立てたことなど、興味深い成果がいくつかあった。子どもたちは、クリスマスの後ごくわずかな時間に主の祈りを教えられ、卒業の日までに彼らは完全に覚えてしまった。卒業式のプログラムで、開会の祈りとして子どもたちは主の祈りを暗唱したが、それを聞くことは本当に感動的だった。

母の会は4月を除いて定期的に開かれており、私達は3人の母親と校長で組織された「幹事」と一緒に計画を立てた。後に、幹事として各クラスから1名ずつの母親と卒業生の母親1名と幼稚園教師1名、校長が決められた。この女性たちはそれぞれの責任を誠実に果たし、会合でも多くの関心を示した。

I. ライザー

4. 第17号（1925年、大正14年）

23頁 北陸部会

J.K.U. 北陸部会の年次総会は、金沢で北陸女学校英和幼稚園において開かれた。プログラムは以下のように行われた。

5月8日 午後3時

礼拝 ミス マツオカ

点呼と議長挨拶 オオヤマ さん

講演：児童心理学 東京のイワムラ先生（※1）

5月8日 午後7時

親睦会と事務会議は、カナダメソジスト伝道団の宣教師の家で行われた。英和幼稚園のカシムラさん（※1）から関西地区の幼稚園を訪問した報告がなされた。

次の役員が選出された。

議長 ミス サクライ

点呼 ミス テイト

書記 ミス セオ

会計（出納） ミス ヒシモト

外国人書記 ミス ベイル
土曜日 5月9日 午前8時30分

ミス ハリエ 議長

礼拝 ミセス オオヤマ

講演 幼稚園の教育課程と装飾
ミセス サカイ

講演 語りの技術
イワムラ先生

講演 幼稚園での手工 ミス ミナミ

会議は祈祷で締めくくられ、昼食が準備された保育室の一つに皆が席を移した。

【補説】

※1 東京のイワムラは、巻末リストに出てくる東洋英和女学校のイワムラ牧師か。同志社を卒業後、アメリカのハートフォード神学校を卒業している。

※2 英和幼稚園 北陸女学校附属カシムラとあるが、巻末リストではコシムラとある。表記のミスであろう。ヒシモト：福井栄冠幼稚園教師、サクライ：白銀幼稚園教師であろう。

49頁 アメリカ聖公会 二葉幼稚園 金沢

1925年は二葉幼稚園において大きな変化があった。12年もの間、私たちは暗くてむさくるしい日本家で幼稚園を運営する不便に奮闘してきた。以前は聖ヨハネ教会の日曜学校だった教室を改修して取り換えた場所に、私たちは現在落ち着き（※1）、子どもたちにとって明るく日当たりのよい家を手に入れたのでとても幸せだ。

しかしながら、何よりもまず素晴らしい現実、それまでは1マイル半も離れていてすぐに連絡を取れなかった教会と、直接接することができるということだ。日曜学校の部屋の改修が予期していたよりも長引いたため、新学期の開始を遅らせた結果、入園者はわずか8人しかいなかった。9月には改善されるだろうから、翌春私たちが落胆することはきっとないだろうと信じている（※2）。

【補説】

※1 1925年の記事であるが、『金沢聖ヨハネ教会八十年史』の同年の記載事項には、移転についての記載はない。また、「教会・施設沿革」としてま

とめられたページにも幼稚園移転の記録は出ていない。日曜学校は、二か所開かれており、一か所は南町に建設された聖ヨハネ教会、もう一か所は二葉幼稚園であった。したがって、彦三から南町に移転したことになる¹⁶⁾。なお、移転した経緯については、ティットロー園長の「幼稚園は伝道の助けにならない」との判断により、教会内に移したとされている。J.K.U.の報告にあるとおり、直接教会と接していることから、移転後は教会の集会に園児や保護者を紹介するなど交わりの機会が多くなったという。

※2 教会史によれば、J.K.U. 記載上移転があった1925年も、教会史記録で移転したとされる1927年も、ともに園児数は10名であり、それまでの24名から半減している。

53頁 カナダ合同教会 丸岡と大野幼稚園 福井

三つの幼稚園すべてで、いつも出席者がいっぱいだった。26名の入園者がいた丸岡幼稚園¹⁷⁾では、教師側の熱心な働きと子どもたちが興味を持っていることの証明として、年間平均23人の出席者がいた。特に、子どもたちは全員、日曜学校にも出席していた。

今年、福井では「健康調査」を実施して、徴候に気をつけていても、後でそれぞれ症状が出てくる目の病気を相当数の子どもに見つけた。

福井幼稚園の母親たち、卒業生、在園児がすばらしいMiesener¹⁸⁾のピアノを寄贈してくれた。クリスマスの最後の行事の朝にピアノが運ばれてきて、聖なる季節に贈り物をしたいと熱望してきた誠実な母親たちに大きな喜びを添えた。

私たちはこのような献身を神に感謝し、神のメッセージがそのように関心を持っている心の奥深くまで沁みこむようにと祈りを捧げた。

M. M. ステープル

53頁 金沢の幼稚園

少し以前のこと、母の会の後で話をするために残っていた一人の母親が、次のように語ってくれた。「何年か前に二人の兄弟がこの幼稚園を卒業していて、今はもう一人の女の子を通わせています。この子に教えてください。私の夫にもだれかが教えてくれたらと思います。彼は信仰は持っていませんが、

子どもたちが幼稚園で聞いてきた話に非常に感銘を受けています。夫を救ってくれる方はいないでしょうか」と。これはありふれた小さな出来事ではあるが、私たちの幼稚園の母親や父親が、霊的な救いや導きを心から希求している姿勢を特徴付けていることだと思う。私たちに向けられた課題は、私たち教師がこの霊的な渴望に応じる能力があるだろうかということだ。私たちの幼稚園教師たちは、何よりもまず、キリスト教の働き手ではないだろうか。

幼稚園の卒業生を日曜学校に来るようにさせるための奮闘は以前から続いていた。時折、私たちは成果に気がつく。それほど以前ではないが、歯科大学を卒業した一人の青年が私に会いにやってきた。前に私たちの川上幼稚園を卒業した彼は、公立の小・中学校に通っている間もずっと日曜学校にも誠実に出席していた。高等学校在学中に、彼はクリスチャンになって、後には自分がいた日曜学校の教師になった。彼は大阪で勉強している間も教会に出席しており、可能な時は日曜学校でも教えていた。毎年のクリスマスに、彼は子供たちへの贈り物として5円を金沢の昔なじみの日曜学校に贈ってくれた。彼が言うには、彼の大きな望みは、父親と母親をキリストに導いて彼自身のクリスチャンホームを築くことだ。

日常業務は多量にあり、いつもどおり継続していた。仏教系の学校が登録者を25人から新規に50人に拡大してきたことにより、幼稚園児は残念なことに激減した。(※)

川上幼稚園では、母親たちがピアノを購入するための約600円を工面し終えたので、近いうちに立派なピアノの所有者となることだろう¹⁹⁾。

私たちのところでは、6人の母親がバイブルクラスで定期的に学び、聖書について質問をしている。

【補説】

※ 1924年の報告に続く内容である。前述の『金沢市統計書』1924年の記載では、園別の人数は明らかではなかったが、1926年（昭和元年）からは、園別の人数が記載されている。

1年後の1926年の統計では、キリスト教幼稚園の入園者は北陸女学校附属幼稚園、二葉幼稚園を合わせた6園で270名、木の花幼稚園と女子師範学校附属幼稚園の合計が100名であった。一方、仏教幼

稚園、金澤幼稚園2園の合計は258名であり、全入園児の4割を占めていた。この状況から、仏教信仰の厚い金沢においていかにその勢力が絶大であったかが明らかであろう。(前掲グラフ1参照)

55頁 金沢の幼稚園

「種を播いたところからの収穫」

収穫したものを見るのは私たちの折々の喜びであり、名誉なことである。何年か前、ある幼稚園にこの写真の賢い小さな少年がいた。彼はこの幼稚園を卒業してからも日曜学校に誠実に出席している数少ない一人だった。中学・高等学校の間も日曜学校に出席し続け、後には洗礼を受けて彼のなじみの日曜学校の教師になった。彼は今歯科大学に在籍しており、来年卒業する。

彼は最近した会話の中で、「自分の望みは母と父をキリストに導き、自分が卒業した時に真のクリスチャンホームを築くことだ」と話してくれた。

こう語った時の彼の幸福そうな顔は、彼のクリスチャン人生における喜びと熱心さを十分に証明するものだった。

歯科大学にいる間の毎年のクリスマスに、彼はなじみの教会学校の子供たちに5円の贈り物をしてくれた。

E. レディアード

56頁 写真



写真2 “Seed Time”
(種播きの時)



写真3 “Harvest”
(収穫期)

【補説】

前の項目(金沢の幼稚園の報告)で述べられている川上幼稚園出身の歯科学生の写真である。川上幼稚園に残る卒園式の写真は、1927年(昭和元年)以降のものであり、この青年が誰であるかは現時点では特定できていない。

5. 第17号(1926年、大正15年)

15頁 北陸部会

北陸部会の年次総会は、5月7日と8日に、金沢の野町教会と幼稚園で開かれた。

礼拝の後、カバヤマ先生からの講演と、委員会や財務に関する様々な報告、大阪のミス・タカモリが、「幼稚園、その教授法とカリキュラム」と題する講演を行った。

この講演は日程の大部分を費やして翌日の午前中まで続けられ、今年の北陸部会では格別聴き応えがあった。

J. ベイツ 書記

29頁 キリスト教に関すること 教会関係 (※1)

高岡(市)にある北陸女学校の幼稚園は、教師たちが幼稚園を教会に結び付けようといつも努力を重ね、誠実に運営されてきた。今年の出席者は最大だった。

I. ライザー
北米長老教会 金沢

教会とより密接に連絡が取れていることを除くと、子ども達の小さな仲間（幼稚園）に関し今年には報告すべきことはない。私たちの総人数は依然としてわずかであるとはいえ、子どもたちが多かった時よりもおそらくより満足すべき結果である。（※2）

H. ティットロー
アメリカ聖公会 金沢

【補説】

※1 この年の幼稚園報告はテーマごとに編集されており、キリスト教に関する報告園は、上記2園のほかに、8園ある。以下の見出し「卒業生」「記念日」なども、同様の編集による報告である。

※2 再三の記載にあったように、仏教系の幼稚園二園が新設された影響によるものと考えられる。これに対し、教会も幼稚園教師たちも祈り、様々な努力を試みたのであろう。この年は34ページに感謝祭の報告もあるが、以後、J.K.U.の記録に二葉幼稚園は出てこない。『金沢市統計書』の記録に残る入園者数は、1926年が7名、1927年は5名であり、1928年の統計報告では、休園との表記になっている。

表1 二葉幼稚園児数

| | | | | |
|------|-------|---------|--------|---------|
| 1925 | 大正 14 | 在籍 10 名 | | |
| 1926 | 大正 15 | 在籍 12 名 | 教師 2 名 | |
| 1927 | 昭和 2 | 在籍 10 名 | 教師 2 名 | 幼稚園移転 |
| 1928 | 昭和 3 | 記載不明 | | 一般的に低調か |
| 1929 | 昭和 4 | 廃園 | | |

『金沢聖ヨハネ教会八十年史』記載記事より作成

30 頁 卒業生

卒業生の38%が日曜学校に出席している。中心的なメンバーのうちの二人は、幼稚園時代からの無二の親友で、有望な青年であり、二人とも最近洗礼を受けて教会の様々な部門で熱心に奉仕している。

M.E. アームストロング
カナダの教会 富山

31 頁

写真31 ページに写真2枚がある。

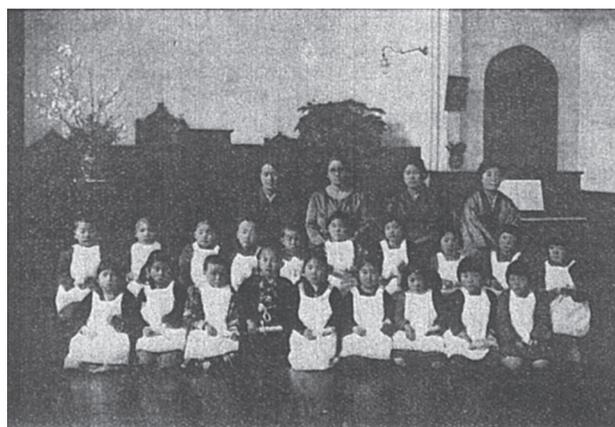


写真4 Nomachi Church, Kanazawa.
(野町幼稚園 金沢)

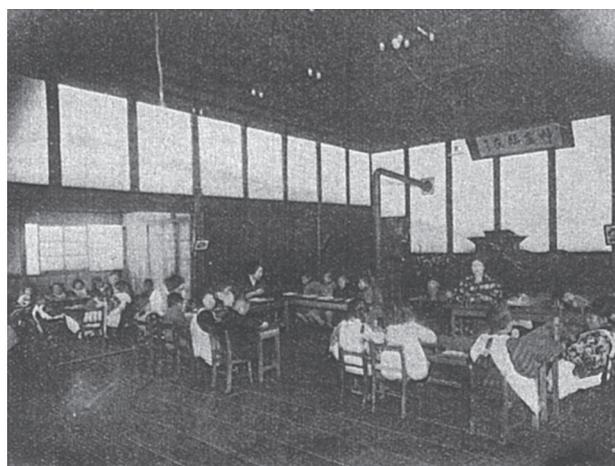


写真5 Nanao Church.
(七尾教会)

【補説】

野町教会の写真の3列目左から2人目は、園長のミス・マクロードか、卒園式の記念写真であろう。後ろに楽譜を載せたピアノも見える。このピアノは、園児の母親達が寄贈したものであることが、1924年の幼稚園報告に記されている。

(前述、49頁金沢の幼稚園の項参照。)

34 頁 特別な日

ちょうどいま、私たちは収穫感謝祭や次に到来するクリスマスとイースターに向けて準備を進めているが、1年のうちで今はもっとも楽しい時期の一つである。

教会のメンバーの何人かが私たちと一体になってくれるので、教区内で援助を必要としている親しい年老いた女性に贈り物をするだけでなく、近くにある児童養護施設（孤児院）※にお米や果物、野

菜などの贈り物を届けた。

カナダ 富山

H.L. ティットロー

【補説】

1925年の報告にもあるように当時、二葉幼稚園は南町に移転していたが、具体的にどの施設を指すのかは未詳。小立野にある金沢育児院に収穫感謝祭の米や果物を届けたことなどが、他の幼稚園の記録などにみることができる。石川県立金沢盲啞学校などにも届けたことも考えられる。

34頁 記念日

昨年、北陸女学校の幼稚園の教師たちと卒業生は、幼稚園創立40周年を祝ってピアノを購入し演奏する準備に必要な資金を集めに奔走していた。十二分な資金が集まってピアノが購入され、準備が整えられた。記念式典のお祝いは、幼稚園創設者のミス・ポーターとミセス・カスガさんが出席して11月の最初の週に予定されている。式典のプログラムの一部として、幼稚園の卒業生と園児の母親たちのための宗教的な集いが行われることになっている。

I. ライザー
北米長老派 金沢

【補説】

感謝祭については、4園から報告がある。

北陸女学校幼稚園に関しては、11月6日午前10時から附属幼稚園において幼稚園創立40周年記念式が行われた。その折、ライザー園長の式辞の後に、ミス・ポーターと元保母の春日鉞が祝辞を述べている。また、同窓会寄贈のピアノの披露演奏会は午後に行われた²⁰⁾。

38頁 母の会

私たちの二つの（幼稚園の）母の会は、この1年に公開の会を2回開いた。一つは東京の「理論栄養研究所」の講師による講演（※1）で、幼稚園で開催された。もう一つは、ミセス・ガントレットによる「出産前の影響」と題する講演（※2）が県の公会堂で開催され、600人以上の女性たちが出席した。

M. E. アームストロング

【補説】

「母の会」に関する報告は10園が行っている。

※1 講演会は東京の小石川区にある栄養研究所の中村博士を招いて、2月17日午後1時から青葉幼稚園で行われた。「食物と栄養価値」と題する講演である。予告記事は2月14日に富山日報に掲載されているが、実施後の報道記事としては残っていない²¹⁾。

以下に記事を再掲する。（漢字・仮名遣いは原文のまま）

【大正15年2月14日 富山日報】

栄養価値の講演會 中村博士来富
青葉幼稚園で（見出し）

富山市総曲輪青葉幼稚園内に園児のお母さんやお姉さん達が會員となつてゐる、家庭會が設置されてあるこの家庭會員達は市内における智識階級に属する者が多くあつてなにか社會に對して有益な仕事をやつて見たいとアーム、ストロング女史及今村恒子夫人等が中心となつて彼れこれ協議した結果、今回人間の食物に關してその料理法及營養価値等について家庭の主婦として心得置くべきことを一般に知らしめることとなし東京市小石川区營養研究所に紹介したところ、同所より中村醫學博士が来富すること、なり十七日午後一時から同幼稚園において中村博士の食物と營養価値に關する長講演あることに決定したが一般婦人の聴講を歓迎すると。

※2 日時、内容ともに現時点では未確認。ミセス・ガントレットは旧姓、山田恒子。1936年に開かれた青葉幼稚園25周年記念祝賀会においても講演を行っている。彼女は、日本基督教婦人矯風会の会長を務めるなど、婦人界の權威とされていた。

今回青葉幼稚園で行われた二つの講演会は、当時の乳幼児の健康に關して、時代の先を行くものであつたと言える。新聞記事でも述べているように、幼稚園に集う家庭会の女性達は知識階級に属して、今子どもたちに何が必要とされているか、また社會に何を還元できるのかという視点か

ら企画された内容である。

この当時、富山県の乳幼児の健康状態は、全国平均に比べ、極めて低調な状態にあった。1924年（大正13年）から1928年（昭和3年）の5年間の平均で見ると、総死亡者の43%が5歳未満の乳幼児であり（全国平均は、37%）、1歳未満での死亡率は乳幼児中の71%（同65%）と高かった。そのため、富山県では育児に関する知識の普及を図る目的で1928年（昭和3年）より予算措置を講じている。具体的には、講演会・講習会・活動写真会などの開催と、「乳幼児の育て方」「産前産後の衛生」「育児の栞」などの印刷物作成である²²⁾。青葉幼稚園での講演会は、それに先立つものであった。特に、幼稚園に集う自分達だけが知識を得るのではなく、公開することで、一般女性にも開放した点において意義深いものである。

6. 第17号（1927年、昭和2年）

30頁 贈り物

卒業生からの贈り物は、立派なピアノと何点かの遊具であった。

I. ライザー
北米長老教会 金沢

38頁 贈り物

5つの幼稚園（※1）母の会は出席者も良好で、関心も申し分なかった。東部の端にある幼稚園（※2）の母親たちは、昨年幼稚園のために買い求めたピアノの支払いを完了できるように、卒業した保護者からもお金を集めていた。

M. E. アームストロング
カナダ 富山

【補説】

1927年も幼稚園報告はテーマごとに編集されている。贈り物についての報告園は、全部で4園である。

※1 5つの幼稚園は、青葉幼稚園、石動幼稚園、上り立町幼稚園のほか、青葉幼稚園の分園である東部分園、橋北分園を指すか。1927年の巻末リストでは、富山県にあるカナダメソジストの幼稚園は青葉幼稚園、石動幼稚園、上り立町幼稚園の三園である。

青葉幼稚園の東分園は1924年のみ、新庄幼稚園は1924年、1925年の2年間の記載がある。いずれも園長はミス・ライアンである²³⁾。

39頁 日課

幼稚園は1年を通じて、兎や鶏、蚕、猫や鳥でにぎやかで、子どもたちは飼育を分担していた。お店屋さんごっこや花壇の手入れ、穀物や果実の収穫はすべて、子どもたちにそれら生き物の世界に気付かせるのに役立っている。よい贈り物を下さる神はその中に実在している。

I. ライザー
北米長老教会 金沢

【補説】

「日課」は3園からの報告がある。

39頁 困難な状況

ほぼ3ヶ月の間、実際8フィート（約2m40cm）の積雪があった（※）にもかかわらず、私たちが休園したのは1日だけだった。子どもたちは、吹きだまりをよじ登りながらも幼稚園に来ることができそうだったなら休まないでおこうと決心し、そしていったん幼稚園に来てしまえば、家にいて遊んだりお菓子を食べながら炬燵に寝そべっていたりするよりも彼らはずっと幸せだった。

M. E. アームストロング
カナダ 富山

40頁 富山の幼稚園

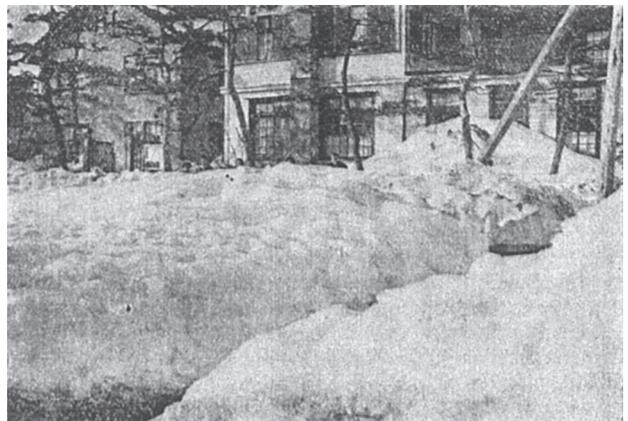


写真6 Toyama Kindergarten.
Not much chance to play in the garden here.

（ここでは、園庭で遊ぶ機会がありません。）

【補説】

「困難な状況」に関する報告は5園からある。

※1926年の記録的な豪雪は、北陸一帯に大きな被害をもたらした。1月18日から降り始めた雪は、2月まで降り続き、雪による死者47名、北陸本線が20日間運休した。富山市内での積雪は7尺5寸、約2.27メートルとなり、幼稚園や小学校は2月11日から3日間休校したほどであった²⁴⁾。

また、金沢市でも同様の豪雪で、金沢測候所の記録では降雪量が1丈9尺4寸(約5.9m)であったことが報じられている²⁵⁾。金沢地方気象台統計による最深積雪量は昭和2年2月12日の時点で167センチメートルと過去3番目の記録である。伏木測候所(富山の気象観測地)では、5.25mを記録している。

42頁 宗教教育の成果

昨年、幼稚園の5人の卒業生が洗礼を受けて教会に迎え入れられた。皆、日曜学校で育った子どもたちだった。

M. E. アームストロング
カナダ 富山

【補説】

「宗教教育の成果」報告は6園からの報告がある。

1927年のメソジスト教会の北陸部会報告では、富山教会で42名の受洗者、富山伝道教区で6名、出町講義所で2名の受洗者がいた事を報告している²⁶⁾。1921年の同報告では、日曜学校33校、生徒総数2435名で前年より408名増加したこと、1925年の活動報告では、「子供の集まり」を433回、平均出席31名との記録がある。幼稚園の宗教教育以外にも日曜学校などの活動を通してキリスト教に子ども達を導いていったのである。

50頁 休暇中の毎日の日曜学校

今年、私たちは日曜学校に出席していない卒業生たちの何人かと親しく接することを願って、夏の間の休暇中、1週間毎日の日曜学校を設けた。日曜学校の上級生何名かと一緒に二人の幼稚園教師と二人の若い聖職者がスタッフとなり、集団ゲームの指導や製作や歌と同じように、実際の聖書研究の素敵なプログラムを進めた。全部で約50人の子どもが

登録して参加した。初日、彼らは笑顔でやってきたが、週が進むにつれていっそう笑顔になり、そして最終日には、この1週間で製作した品が陳列され、習った歌を発表した彼らは、幸福でたいそう光り輝いていた。

1週間連続して行う日曜学校は、キリスト教の雰囲気や包まれて熱心な教師たちと直接接しているのので、この子どもたちの心に永続する影響を作らずにはおかない。

J. ギレスピー
カナダ 福井

55頁 北陸部会

金沢のグループは、5月6日、7日の部会で55名の出席者を受け入れ、もてなした。

特徴的なことは、金沢市内にキリスト教幼稚園の母の会の連合(*)があることである。

内容に関する他の話題では、「家庭と幼稚園における宗教教育」「おろか者(絵本)」²⁷⁾「劇リズム遊び」があった。

【補説】

※1927年(昭和2年)当時、金沢市内の幼稚園は9園中5園がキリスト教幼稚園であった。北陸女学校附属幼稚園を除けば、すべてカナダメソジストの幼稚園(馬場幼稚園、川上幼稚園、白銀幼稚園、野町幼稚園)であるため、結びつきも強かったのである。(二葉幼稚園はこの時点で休園している。)

7. 終わりに

今回翻訳した年次報告の5年間には、各幼稚園に共通する二つの話題がある。

一つは、仏教系幼稚園の開設による園児減少の問題である。場所が近い幼稚園の受けた影響は深刻である。それに対し、同一教派の幼稚園が複数あれば、連携して対策を強化することも可能であったであろう。しかし、市内に1園しかない教派の園は休園を余儀なくされる結果となり、それは金沢に限らず富山でも同様であった²⁸⁾。

もう一つは、ピアノの購入に関する報告である。富山にある青葉幼稚園が1922年、金沢では野町幼稚園が1924年に購入した。川上幼稚園は1924年から準備をして1925年に購入、北陸女学

校幼稚園は1926年に購入と、この数年に集中している。また、購入資金はミッションの母体からの寄付ではなく、どの園も卒園児を含めた園児達の母親が中心となって資金を集めて寄贈に至っている。母親たちの熱意を感じずにはいられない。

このように、同時代の同地域の記録を追うという横断的な捉え方をすることで、一つの園の記録からだけでは見えてこない、その時代特有の状況が明らかになってくる。

次号『ANNUAL REPORT OF THE JAPAN KINDERGARTEN UNION [1928-1939]』（6巻）の翻訳と解説により、この企画は一応の終わりとなる。完結した時点で、横断的視点と縦断的視点の両面から、改めて北陸地方におけるキリスト教幼稚園教育を検証していきたいと考えている。

謝辞

本文の訳及び写真転載に関しまして、社団法人キリスト教保育連盟より許諾をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。また、マイクロフィルムの閲覧・該当記事の検索に関しては、富山県立図書館資料課の方々にお世話になりました。記して感謝申し上げます。

1927年巻末リストより抜粋

KINDERGARTENS CONTRIBUTING TO THE KINDERGARTEN FUNDの記載は、年による変動があるが、以下に北陸地方関係分を抜粋する。

1923年 24の園や教団が記載されている。

| (Place | Name of Kgn. | Mission の順) |
|-------------|--------------|------------------|
| 2. Fukui | Eikwan | Canada Methodist |
| 8. Kanazawa | Kanazawa | Canada Methodist |
| 15. Nanao | Nanao | Canada Methodist |

1924年 記載場所の数は14

| | | |
|-------------|----------|------------------|
| 1. Fukui | Eikwan | Canada Methodist |
| 5. Kanazawa | Kanazawa | Canada Methodist |
| 9. Nanao | Nanao | Canada Methodist |

1925年 記載場所の数は29 (通し番号はない)

| | | |
|----------|----------|-------------------------|
| Fukui | Eikwan | United Church of Canada |
| Kanazawa | Kanazawa | United Church of Canada |
| Kanazawa | Futaba | American Episcopal |
| Toyama | Aoba | United Church of Canada |

1926年 記載場所の数は31 (通し番号はない)

| | | |
|----------|----------|-------------------------|
| Fukui | Eikwan | United Church of Canada |
| Kanazawa | Kanazawa | United Church of Canada |
| Kanazawa | Futaba | American Episcopal |
| Toyama | Aoba | United Church of Canada |

1927年 記載場所の数は10 (通し番号はない)

この年は、北陸関係分は全く記載がない。

参考資料 1. KINDERGARTEN BELONG TO THE UNION.

今回の巻末リストは、1923年～1927年までをまとめた一覧表である。これまで記載されていた主任などの教師名(養成校)の欄は、1924年以降の巻末リストには設けられていない。空欄であるのは、そのためである。

表記に関しては『北陸学院短期大学紀要』第39号掲載の表(1919年～1922年)と同様に、地名・園名は漢字表記を原則とし、漢字表記が未確定な者も多いため日本人教師はカタカナ表記で統一した。外国人名は元の表記のままとした。

| 所在地 | 園名 創立年 | Mission | 園長 (養成校) | 年 J.K.U.号 | 主任 (養成校) | 入園者 | 保育料 |
|-----|-----------------------------|----------------|---------------------------------------|--------------|---|-----|------|
| 福井 | 栄冠幼稚園 1914年創立 1922年初出 | カナダ メソジスト | Miss M. Staples (Toronto K. T. S.) | 1923 (17) | Miss ヒロエ (活水 K. T. S.) Miss ハタノ (東洋英和 K. T. S.) Miss ヒシモト (Training Normal) | 50 | 1.00 |
| | | | | 1924 | | 50 | 1.00 |
| | | | | 1925 | | 55 | 1.00 |
| | | | | 1926 | Miss Gillespie | 60 | 1.50 |
| | | | | 1927 | Miss Gillespie | 60 | 1.50 |
| 金沢 | 二葉幼稚園 1912年創立 | プロテスタント 聖公会 | Mrs. P. A. Smith | 1923 | Miss オカモト (仙台 青葉) Miss マツダ (仙台 青葉) | 40 | .70 |
| | | | | 1924 | ※この年はリストに園名の記載なし | | |
| | | | | 1925 | | 10 | 1.00 |
| | | | | 1926 | | 10 | 1.00 |
| | | | | 1927 | Miss H. L. Tetlow | 10 | 1.00 |

| | | | | | | | | |
|----|-----------------------------------|--------------|---|-------------|--|-----|------|-----|
| 金沢 | 北陸女学校附属幼稚園 1885年創立 | 北米長老会 | Miss. Irene Riser (Alma College Kind. Dept.) | 1923 | Miss ナガシマ Miss コシムラ (広島) | 101 | 1.00 | |
| | | | | 1924 | | 90 | 1.50 | |
| | | | | 1925 | | 90 | 1.50 | |
| | | | | 1926 | | 90 | 1.50 | |
| | | | | 1927 | | 97 | 1.50 | |
| 石動 | 石動幼稚園 1917年創立 | カナダ メソジスト | Miss Ryan | 1924 | | 30 | .50 | |
| | | | | 1925 | | 21 | .80 | |
| | | | Miss Armstrong | 1926 | | 21 | .80 | |
| | | | | 1927 | | 21 | .80 | |
| 金沢 | 馬場幼稚園 1909年創立 | カナダ メソジスト | Miss McLeod | 1923 | Miss シマ (東洋英和 K. Nor.) Miss フクミ (東洋英和 K. Nor.) | | | |
| | | | | 1924 | | 45 | 1.00 | |
| | | | Miss E. Lediard | 1925 | | 45 | 1.00 | |
| | | | | 1926 | | 45 | 1.00 | |
| | | | | 1927 | | 45 | 1.00 | |
| 金沢 | 川上幼稚園 1911年創立 | カナダ メソジスト | Miss McLeod | 1923 | Miss フクシマ (東洋英和 K. Nor.) Miss ヤマグチ (東洋英和 K. Nor.) | | | |
| | | | | 1924 | | 65 | 1.00 | |
| | | | Miss E. Lediard | 1925 | | 65 | 1.00 | |
| | | | | 1926 | | 65 | 1.00 | |
| | | | | 1927 | | 65 | 1.00 | |
| 金沢 | 白銀幼稚園 1914年創立 | カナダ メソジスト | Miss McLeod | 1923 | Miss カジワラ Miss サクライ (頌栄幼稚園) Miss ホリ | 76 | | |
| | | | | 1924 | | 60 | 1.00 | |
| | | | Miss E. Lediard | 1925 | | 76 | 1.00 | |
| | | | | 1926 | | 60 | 1.00 | |
| | | | | 1927 | | 60 | 1.00 | |
| 金沢 | 野町幼稚園 1919年創立 1921初出 | カナダ メソジスト | Miss McLeod | 1923 | Miss ユハラ (東洋英和 K. Nor.) Miss イトウ (東洋英和 K. Nor.) | | | |
| | | | | 1924 | | 55 | 1.00 | |
| | | | Miss Tait | 1925 | | 55 | 1.00 | |
| | | | | 1926 | | 55 | 1.00 | |
| | | | | 1927 | | 55 | 1.00 | |
| 七尾 | 七尾幼稚園 1912年創立 | メソジスト | Miss Tait | 1924 | | 35 | 1.00 | |
| | | | | 1925 | | 35 | 1.00 | |
| | | | | 1926 | | 35 | 1.00 | |
| 丸岡 | 丸岡幼稚園 1917年創立 | カナダ メソジスト | Miss Stales | 1924 | | 26 | .50 | |
| | | | | 1925 | | 26 | .50 | |
| | | | Miss Killam | 1926 | | 35 | .50 | |
| | | | | 1927 | | 35 | .50 | |
| 小浜 | 聖ルカ幼稚園 1918年創立 1921から | アメリカ 聖公会 | Mr. ヤマダ | 1923 | Miss ヤマザキ (青葉) Miss ナカイシ (青葉) | 45 | .39 | |
| | | | | 1924 | | 45 | .39 | |
| 大野 | 旭幼稚園 1918年創立 | カナダ メソジスト | Miss M. Staples | 1923 | Mrs マルヤマ Miss コシヤマ | 35 | .50 | |
| | | | | 1924 | | 35 | .50 | |
| | | | Miss Holmes | 1925 | | 35 | .50 | |
| | | | | Miss Killam | 1926 | | 40 | .50 |
| | | | | | 1927 | | 40 | .50 |
| 高岡 | 北陸女学校 附属第三幼稚園 1911年創立 ※1 | 北米長老会 | Miss. Irene Riser (Alma College Kind. Dept.) | 1923 | Mrs. オオヤマ (頌栄幼稚園) ※2 Mrs. ミナミ | 66 | .80 | |
| | | | | 1924 | Mrs. コジマ | 54 | 1.00 | |
| | | | | 1925 | | 54 | 1.00 | |
| | | | | 1926 | | 54 | 1.00 | |
| | | | | 1927 | | 46 | 1.00 | |

| | | | | | | | |
|----|------------------------------------|--------------|--|-----------------|--|----|------|
| 富山 | 青葉幼稚園 1911年創立 | カナダ メソジスト | Miss Ryan | 1923 | Miss イチカワ Miss ナカジマ (東洋英和 K. T. Nor.) | 65 | .80 |
| | | | | 1924 | ※ 3 | 60 | 1.00 |
| | | | Miss M. E. Armstrong (Toronto K. T. S.) (Partial) | 1925 | | 65 | 1.50 |
| | | | | 1926 | Miss イチカワ Miss ナカジマ (東洋英和 K. T. Nor.) | 65 | 1.50 |
| 富山 | 上り立町 1919年創立 | カナダ メソジスト | Miss Ryan | 1924 | | | |
| | | | | 1925 | | 35 | .90 |
| | | | Miss E. Armstrong | 1926 | | 35 | .90 |
| 富山 | 青葉 - 東 1919年創立 | カナダ メソジスト | Miss Ryan | 1924 | | 37 | .80 |
| | | | | 1927 | | 35 | .90 |
| 富山 | 新庄 1923年創立 | カナダ メソジスト | Miss Ryan | 1924 | | 30 | .50 |
| | | | | 1925 | | 26 | .50 |
| | | | | 1926 | | 26 | .50 |
| | | | | 1927 | | 26 | .50 |
| 富山 | 北陸女学校附属 第二幼稚園 1909年創立 ※ 4 | 北米長老会 | Miss. Riser (Alma College Kind. Dept.) | 1923 | Miss アトジ ※ 5 | 30 | |
| | | | | | | | |
| 敦賀 | 敦賀幼稚園 1917年創立 1922初出 | カナダ メソジスト | Mrs. Holmes | 1923 | Miss コシダ Miss コビキ | 30 | 1.00 |
| | | | | Miss M. Staples | 1924 | | 30 |
| | | | Mrs. Holmes | 1925 | | 30 | 1.00 |
| | | | | 1926 | | 30 | 1.00 |
| | | | | 1927 | | 30 | 1.00 |

K. T. S. . . . Kindergarten Training School

なお、1923年のリストには、「Foreigner ever in charge 5yrs. or over」の欄がある。下記5つの幼稚園に記されているのは、以下の人名である。1924年以降は、幼稚園教師名の欄もなくなっている。

栄冠幼稚園 Mrs. Holmes、北陸女学校附属幼稚園 Miss Johnstone、Miss Porter
 聖ルカ幼稚園 Miss Ida Worth、北陸女学校附属第三幼稚園 Miss Johnstone、
 青葉幼稚園 Miss Armstrong

※ 1：1919年以後第二幼稚園となったが、巻末リストの記載では1923年はNo. 3と記載、24年以降No. 2としてある。

※ 2：Mrs. オオヤマは大山徳、Mrs. ミナミは南たみ、1925年2月8日の高岡教会総会記念写真に二人とも写っている。
 ライザー宣教師もその写真の中央に座っている。（『高岡教会小史』日本基督教団高岡教会）

※ 3：青葉幼稚園 もととの記載では入園者75、保育料1.50となっているが、1行後に園名がない空白の行があることから記載欄にずれが生じたと判断できる。入園者60、保育料1.00の誤りであろう。

※ 4：1919年に閉園したが、1923年までリストに記載されている。

※ 5：Miss アトジは阿閉恭子で、高岡教会教会員。高岡日本基督伝道教会設立式(1917年6月3日)の記念写真(集合写真)に幼稚園主任との説明入りで写っている。

17号から21号(5巻)は以上である。

参考資料2

J.K.U. 時代の北陸部会研修会一覧

| 回 | 年月日 | 開催地 | 講演、報告（記載者） | 参加人数 | J.K.U. 巻： ページ |
|----|--------------------------|------------------------|---|--------|------------------|
| 8 | 1923 大正 12 5/10.11 | 金澤 北陸女学校 附属英和幼稚園 | 「母の会」 「卒業生への福音伝道の業」 「歌」 「子どもの健康」 | 約 50 人 | 17 巻： 17P |
| 9 | 1924 大正 13 5/9.10 | 野町教会、 野町幼稚園 | 講演：金澤医科大学 林博士「幼稚園における子どもの健康」 講演：オオヤマトク※1「非キリスト教幼稚園とキリスト教幼稚園の恩物の使用の比較」 | — | 18 巻： 19-20P |
| 10 | 1925 大正 14 5/8.9 | 金澤 北陸女学校 英和幼稚園 | 講演：東京の岩村博士「児童心理学」※2 報告：カシムラ「関西地区の幼稚園訪問」 講演：ミセス・サカイ「幼稚園の教育課程と装飾」 ミス・ミナミ「幼稚園での手工」※2 イワムラ「語りの技術」 | — | 19 巻： 23P |
| 11 | 1926 大正 15 5/7.8 | 金澤 野町教会 幼稚園 | 大阪ミス・タカモリ「幼稚園—その教授法とカリキュラム」 ※2 | — | 20 巻： 15P |
| 12 | 1927 昭和 2 5/6.7 | — | 特記事項：市内キリスト教幼稚園母の会連合 「家庭と幼稚園における宗教教育」 「絵本」「劇とリズム遊び」 | 55 名 | 21 巻： 55P |

『日本キリスト教保育百年史』における「J. K. U. 時代の北陸部会研修会一覧」に未記載だった内容を追加記載したものである。今回訳した部分に相当する第8回から12回までをまとめたものである。第10回(1925)については、元の一覧には欄がなかったため、追加記載した。

—：該当部分に関する記載がなかった欄。

※1：元の一覧表では「尾山徳」と記載しているが、「大山徳」〔旧姓内藤、北陸女学校及び高岡の北陸女学校附属第三幼稚園保母〕か。

※2：巻末リストの養成校一覧では、東洋英和女学校のイワムラ牧師(ハートフォード神学校卒業)か。ミス・ミナミは高岡の北陸女学校附属第三幼稚園教師、ミス・タカモリは大阪のランバス女学院保育専修部の教師。

<注>

1 関東大震災のこと。同日午前 11 時 58 分、神奈川県相模湾沖を震源とする大地震が起こり、東京都、神奈川県、千葉県、静岡県などの南関東地方に大きな被害をもたらした。

関東大震災が起きた翌 1924 年の幼稚園報告には、この震災にどのように対処したかも語られている。例えば、名古屋の柳城幼稚園では、収穫感謝礼拝の時に震災援助のために用いており、クリスマスの贈物を控えたり、子どもたちに貯金箱を配って自己犠牲的な贈物の意味を学ばせたりしたとの記載がある。(ノラ・ポーマン報告) 尾上明子、菊池伸二 2000「J.K.U. 年次報告に見る『柳城』」名古屋柳城短期大学研究紀要第 22 号 p178

2 本文の原文は以下の通りである。

SUNSHINE FROM WITHOUT.

1. WHILE PLAYING AND LEADING.
2. IN DELIGHTFUL FESTIVALES.
3. MOTHER COMES TO KINDERGARTEN.
4. MAKING FOR HEALTHY CHILDREN.
5. THE GARDENER'S LOVING CARE.
6. GIFTS THAT IMPROVE THE GARDEN.

SUNSHINE FROM WITHIN.

1. THE CHILD BECOMES A WITNESS.
2. MAKING OTHERS HAPPY.

SUNSHINE THROUGH CLOUDS.

THE EARTHQUAKE AND FIRE OF SEPTEMBER 1, 1923

3 別冊は 1908 年にも出されているが、1923 に年は 2 冊出版された。A. L. ハウによる『THE BIBLE IN THE KINDERGARTEN AND TRAINING SCKOOL』が 1923 年に出版されている。年次報告書の刊行については、J.K.U.7 巻の解説参照のこと。(7 章 解説 I. 「J.K.U. の歴史とその役割」 p361)

4 『ANNUAL REPORT OF THE JAPAN KINDERGARTEN UNION』7 巻 (解説 p73) に既に訳文が掲載されている。

5 山森泉・児玉衣子 2006「北陸地方のキリスト教保育史—J.K.U. 年報からの翻訳と解説—」『北陸学院短期大学紀要』第 39 号 p95 参照

6 『金沢市統計書』『金沢市史 通史篇 3 近代』p434 など。

7 『ANNUAL REPORT OF THE JAPAN KINDERGARTEN UNION』の 1921 年 p70 訳は前掲『北陸学院短期大学紀要』第 39 号 p94

8 J.K.U. の記事 p49 (前掲紀要 p95)

なお、『金沢市統計書』添付の地図より、幼稚園の大体の場所を記入した。仏教幼稚園 2 園の影響を最も受けやすい位置に、二葉幼稚園があったことがわかる。A: 二葉幼稚園、B: 仏教幼稚園、C: 金沢幼稚園、D: 白銀教会、E: 聖公会教会、F: 馬場幼稚園を、お

およその位置関係で示した。



図 1 1922 年の金沢市市街図
(『金沢市統計書』に添付のもの)

7 区画に分けられている表示の第 6 区画 (太線による区切り) 中央部に二葉幼稚園、仏教幼稚園、金澤幼稚園が近接している。白銀幼稚園、馬場幼稚園も同じ区画にあるが、いずれも区画の端に位置しており、二葉幼稚園ほどの大きな打撃にはならなかったと考えられる。

9 『聖ヨハネ教会八十年史』より、幼稚園に関する事項を抜き出すと、以下ようになる。

表 I

| | | | |
|------|---------|---------|-----------------------------|
| 1912 | 設立 | | |
| 1913 | 園児 40 名 | | 園長ティットロー、保母山本まさ |
| 1914 | | | |
| 1915 | | 保母 2 名 | 母のための月 1 回講話 |
| 1916 | | 卒園 16 名 | 入園希望者は多いが園舎が狭いため、拡張を計画 |
| 1918 | | | 9 月より菊田スエ、保母として園長ハンフレスを助ける。 |
| 1919 | | | 福井からティットロー出張、月 1 回の母の会 |
| 1920 | | | 記載なし |
| 1921 | | | |
| 1922 | | | |
| 1923 | 在籍 24 名 | 教師 1 | |
| 1924 | 在籍 24 名 | 教師 2 | |

『金沢聖ヨハネ教会八十年史』記載記事より作成

- 10 後述の『金沢市統計書』よりのデータ参照。
- 11 蓄音機に関して、原文にある「Victrola」は商標名であり、一般的には「gramophone」である。また、十四番幼稚園の父母の会などでレコード鑑賞会を開催した記録があり、実際に当時教材として用いたレコードが保存されている。
- 12 『石川県教育史』(p91～)によれば、大正時代に始まった新教育運動の影響からか、幼児教育の必要性が高まり、特に石川県では全国平均を上回る幼稚園児がいたという。
- 13 女子師範学校附属幼稚園、木の花幼稚園、北陸女学校附属幼稚園、馬場幼稚園、川上幼稚園、白銀幼稚園、野町幼稚園、二葉幼稚園、金澤幼稚園、仏教幼稚園。
- 14 「川上幼稚園母の会記録」大正13年10月31日、11月、大正14年2月25日の記録による。
- 15 幼稚園教育を受けた子とそうではない子との違いが入学式当日に見て分かること、教師に慣れており、目の使い方、応答振り、気の利く点、手工にもなれていて巧みであることなどを、小学校長の言葉として載せている。(『石川県教育史』II p93)
- 16 教会史によれば、2階建ての教会の1階に3教室があった。この幼稚園の移転について、教会史では、1927年(昭和2年)としているが、先に公刊されているJ.K.U.の年次報告の記載が正しいと見るべきであろう。また、幼稚園児数に関する記載がない年もあり、『八十年史』の編纂の折にずれが生じたことも考えられる。(原資料未確認)
- 17 巻末リストでも、入園者数は26名となっている。
- 18 Micesener (ミズナー) はアメリカのピアノメーカーの名前。www.ina.janis.or.jp/makita/pianomaker2/htm (2008年10月30日)
- 19 1924年の報告参照。
- 20 『北陸学院百年史』p300 関連記述がある。
- 21 月末までの新聞記載を確認した。当時の新聞では、行事そのものの報道よりも開催の予告記事を載せる傾向にあったようである。
- 22 『新富山県』1931年 p218
- 23 出町教会に週1回の幼稚園、城端には週2回の幼稚園を設けていることが教会史に記されている。(『富山二番町教会百年史』第一部 p129～、p511～) その他、『富山市史』1931 p518。ミス・レディアードが1924年

に石動幼稚園児と一緒に写っている写真もある。(『石動教会創立八十年記念誌』)

- 24 北陸タイムス2月13日の記事など。その他、『新聞に見る20世紀の富山I 北日本新聞社』。
- 25 北国新聞2月11日の記事など。その他、『実録 石川県史 1868-1989』
- 26 『富山二番町教会百年史 第一部 - 1891-1940 富山県メソジスト教会史-』p132
- 27 原文には「Birks' (Illusyrated)」とあるが、実際にどのような話であるのかは不詳である。
- 28 山森泉・児玉衣子 2006「北陸地方のキリスト教保育史-J.K.U.年報からの翻訳と解説(4)」『北陸学院短期大学紀要』第39号 95-97(1922年の項)参照。

<引用・参考文献>

- 1) 『石川県教育史』I・II 1974
- 2) 『石動教会創立八十年記念誌』1992
- 3) 『金沢市統計書』1915-1927
- 4) 『金沢市史』(現代編 下)1969
- 5) 『金沢市史』(通史編3近代) 2006
- 6) 『実録 石川県史 1868-1989』2001
- 7) 『新聞に見る20世紀の富山I』 2000 北日本新聞社
- 8) 『新富山県』1931
- 9) 『富山県史』(史料編4)1978
- 10) 『富山二番町教会百年史』第一部 1993
- 11) 尾上明子、菊池伸二 2000「J.K.U.年次報告に見る『柳城』」名古屋柳城短期大学研究紀要第22号 178
- 12) 金沢聖ヨハネ教会 教会史編纂委員会編 1979『日本聖公会 金沢聖ヨハネ教会八十年史』
- 13) 学校法人川上幼稚園「母の会記録」
- 14) キリスト教保育連盟編『ANNUAL REPORT OF THE JAPAN KINDERGARTEN UNION』7巻(解説)
- 15) 日本キリスト教保育連盟百年史編纂委員会編 1986『日本キリスト教保育百年史』第4章「キリスト教保育連盟」表4-5 262
- 16) 北陸学院百年史編纂委員会 1900『北陸学院百年史』
- 17) 保科隆編 1986『高岡教会小史』
- 18) 山森泉・児玉衣子 2007「北陸地方のキリスト教保育史-J.K.U.年報からの翻訳と解説(4)」『北陸学院短期大学紀要』第39号